



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/16 (月)	+ 500	▲ 11,000	▲ 10,500	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行償還 (個人) 流動性供給	国債補完供給 + 2,700		日：GDP(10-12月期速報) 鉱工業生産(12月) 欧：鉱工業生産(12月)
2/17 (火)	トン	+ 4,000	+ 4,000				
2/18 (水)	+ 1,000	▲ 31,000	▲ 30,000	国債発行 (5年)	共通担保(全) ▲ 8,000		日：貿易収支(1月) 米：FOMC議事要旨(1月27、28日開催分)
2/19 (木)	トン	+ 14,000	+ 14,000	各種財政資金の支払い			米：貿易収支(12月) 新規失業保険申請件数(2月14日終了週)
2/20 (金)	トン	▲ 8,000	▲ 8,000	国債発行 (20年) 国庫短期証券発行償還 (1Y)			日：全国CPI(1月) 米：GDP(4Q、速報値) 欧：製造業・サービス業・総合PMI(2月)

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2,500億円減少の454兆1,400億円から始まった。その後、年金定時払い・源泉税揚げ、国債発行等の要因により増減し、13日は462兆7,700億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.728%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は概ね横ばいで推移した。

ターム物は1W～3W物0.710%～0.900%のレンジ、1M～3M物0.785%～0.940%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では16日にGDP(10-12月期速報)の公表、20日に全国CPI(1月)の公表、海外では18日にFOMC議事要旨(1月27、28日開催分)の公表、19日に米貿易収支(12月)、20日に米のGDP(4Q、速報値)公表などがある。

〔無担保コールレート〕

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ～ 0.728
1M	0.78 ～ 0.85
2M	0.85 ～ 0.95
3M	0.90 ～ 1.00
6M	1.00 ～ 1.20

＜レポ＞

足許GCは週を通して+0.75%～+0.755%の狭いレンジで取引された。買い入れオペや短国の発行等の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年470～480回債、5年155～183回債、10年356～371、378～380回債、20年110～130回債、30年86～88回債などに引合いが見られた。

〔オープン市場〕

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70%台
CP 3M	0.85 ～ 1.00

＜CP＞

今週の入札発行総額は約1兆9,765億円で、週間償還額の1兆6,100億円を上回った。発行残高は、先週末時点の26兆4,022億円から、2月12日時点で26兆2,013億円へと減少した。発行市場では、電気機器・小売業・建設業・不動産業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.70%台後半から0.90%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆5,000億円となっている。発行市場は、償還額と同程度の発行が見込まれる。発行レートは、日本銀行が利上げを継続する姿勢を示していることから、引き続き水準を見極める展開が続くだろう。

＜TDB＞

9日の6M（1361回債）の入札は、最高落札利回り0.8627%（前回債0.7739%）、平均落札利回り0.8484%（前回債0.7697%）となった。

13日の3M（1362回債）の入札は、最高落札利回り0.7635%（前回債0.7574%）、平均落札利回り0.7538%（前回債0.7486%）となった。

来週の入札は19日に1Y、20日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。